

一普及員がみたある町の農業の風景

吉田 浩一

(宮崎県えびの農業改良普及所)

「普及の現場から」ということで執筆を依頼されたのですが、ここでは特に、私の勤務するえびの農業改良普及所管内（えびの市）での稲作を中心に農家の現在の姿を綴ってみようと思います。

まず、えびの市の地理的な概要を述べてみましょう。えびの市は宮崎県の最西端にあたり、鹿児島、熊本両県と境を接しております。

農用地は4,041haで標高は218m～1,699mあります。そして、えびの市の中央を東から西に川内川が流れ、流域には肥沃な水田が広がっております。

さて、話はこの水田地帯に関わることなのですが、現在、農家がどのような状況にあるのかを紹介したいと思います。

それでは、私の担当する稲作を中心に話をすすめます。当地域の普通期水稻の10a当り収量は63年で平均535kgという非常に高いレベルにあります。農家の方と話すと、600kg穫れて当り前、700kg程度穫れないと満足しないといったようなことを聞きます。従いまして、農家の方の稲作にける情熱にはたいへんなものがありまして、普及所にはよく問い合わせの電話がきたり、農家の方が来られます。つまり、えびの市は昔から水稻が重要な位置を占め、逆に、このことが今になってえびの市の稲作の農業を含めた大きな課題となってきました。

具体的に申し上げますと、昨今の米情勢の変化です。水田農業確立によります転作、うまい米、売れる米づくりへの転換、米の輸入自由化攻勢等、直接当地域に影響するような課題が目白押しとなっていることです。

その中で、転作ですが、えびの市では約800haの転作面積があります。そして、この転作こそがえびの市の農業に大きな影響を与えております。

第1には、えびの市の水田のほとんどが湿田でしかも基盤整備率が33%程度と低いことです。このことにより集団転作は数集団しかなく、ほとんどがバラ転であるということです。

第2に先に述べました転作地に作付けされているのは飼料作（イタリアンライグラス、トウモロコシ等）とサトイモ（石川早生）がほとんどであるということです。

しかも、この飼料作はいわゆる牛の腹を通らない、つまりは、作りすてという状況が多いということでもあります。

第3は専業農家が少なく（29%）しかも、後継者が非常に少ないといったことです。従って、農地流動化をさかんに図っても、その土地に作付けする人がいないということになるのです。

以上述べたようなことが絡まりあって当地域の農業の情勢は非常に厳しいと言わざるを得ません。また、農家の方たちは年々高齢化しております。そのような人達に例えば基盤整備を説明しますと次のような言葉が返ってきます。「農業は私達の代までで良い。子供たちには勤めてもらいたい。だから、わざわざお金をかけてまで基盤整備する必要はない。」

もちろん若い人の中には積極的に基盤整備をしようと言う人もいますがそれはごく少数であります。

さて、次に、えびの市の稲作の問題についてふれてみたいと思います。

前に述べたように、当地域は水稻の高収量地帯であります。品種は今まで、「ミナミニシキ」「ミズホ」といった収量は高いが、品質に問題のある稲が作付けされてきました。

しかし、昨今「うまい米、売れる米」の作付け努力が必要となってきました。そして今年（平成元年度）からいっせいに味のよい「ミナミヒカリ」の作付けを拡大したところ。また、一部の地区では、集団的に「コシヒカリ」の早期栽培を始めたところ。さらに産地間競争が激化が予想されることとなり、また新品種の「ヒノヒカリ」への転換が急務となっております。

以上のような状況から、農家の間では、今年変えたばかりの品種を来年もまた変えなければいけないのかといったような不満が出ております。また、私たち技術員の間でも、新品種の栽培体系をどのようにするか問題となってきました。

さて、ここまで、えびの市の稲作をめぐる状況についてさまざまに述べてきました。内容をみると前途多難といった状況なので、普及所は何をしているんだとお叱り

をうけるかもしれません。しかし、私が想うのはこのえびの市の農業の形態が古い型から新しい型に変化していく、この時に普及が少しでもその一助になればいいのではないかといったことです。つきつめて言うとは技術的な問題よりも、将来を考えていく意識が大切だということです。私の勤務しますえびの農業改良普及所では、「むらづくり」等に取り組んでおります。微力ながら、少しづつえびの市の農家の人達に将来どのようにすればよい

のかビジョン作りを進めていくことが必要なのではと考えています。

暖地営農むらづくり事業によって研修施設を建てたある地区の区長さんが次のように言われました。

「建物を造るのではなく、人づくりをするのだ。」

言い得て妙、しかし、難しい言葉だと考えました。

とりとめもない文章になってしまいましたが、御一読いただきありがとうございます。